



本器は(株)ティアンドデイ社製ワイヤレスデータロガー (おんどとり Wireless)の計測データを、親機経由で蓄積するモジュールです。RTR-71/72、RVR-72、RPR-72 シリーズに対応し、温度、湿度、アナログ、パルスデータの無線化と弊社リアルリンクネットワークへの取り込みが容易に可能です。

蓄積したデータは蓄積モジュール (WRT-STHT) を経由して収集します。各種設定とデータの吸い上げは、パソコンより専用の蓄積設定ツール (WRS-PMS) で行います。

※別途 Wireless for Windows が必要です。

用途

- 温度、湿度、アナログ、パルスデータの簡易無線ネットワーク化
- ワイヤレスデータロガー計測データのリアルリンクネットワークへの取込み
- 省配線

形式

WRT-STOT-4

シリーズ	タイプ	トランシーバ	メモリ	電源	内容
WRT					プラグインモジュール
	STO				ワイヤレスデータロガーモジュール
		T			TP/XF-78
			4		512Kバイト
				1	AC100V±10%
				2	AC200V±10%
				4	AC110V±10%
				5	AC220V±10%

(株)ティアンドデイ社製 RTR-71/72、RVR-71、RPR-72 通信専用

※ワイヤレスデータロガー (おんどとり Wireless) RTR-71/72、RVR-72、RPR-72シリーズ、および Wireless for Windows は、(株)ティアンドデイ社の製品です。

特長

- 温度、湿度、アナログ、パルスデータの簡易無線ネットワーク化
- ワイヤレスデータロガー計測データのリアルリンクネットワークへの取り込み
- コンパクトな小形プラグインタイプ
- DIN レールへ取り付け可能

仕様

入力仕様

接続 (ワイヤレスデータロガー)	D-sub コネクタ 9 ピン
RS-232Cケーブル	ワイヤレスデータロガー付属ケーブルを使用 (親機と接続)
インターフェース	半同期シリアル通信
通信方式	半二重
通信同期方式	調歩同期式 (スタートビット=1, ストップビット=1)
通信速度	9600bps
キャラクタ長	8 ビット
パリティ	なし
XON/XOFFフロー制御	なし
誤り検出	チェックコード
プロトコル	ポーリングセレクトング方式
受信タイムアウト	あり

基本仕様

電源電圧	AC100/110/200/220V±10%(50/60Hz)(ご注文時指定)
消費電力	約 4VA
メモリ	512K バイト
バックアップ	内蔵バッテリーで約 3 年間 約 3 年ごとに交換が必要 (有償)
アイソレーション	通信 (Lon) - 通信コネクタ (232C) - 電源端子間相互
絶縁抵抗	通信 (Lon) - 通信コネクタ (232C) - 電源端子間相互 DC500V メガー 100MΩ 以上
耐電圧	通信 (Lon) - 通信コネクタ (232C) 間 AC1000V 1 分間 通信 (Lon) - 電源、通信コネクタ (232C) - 電源端子間 AC2000V 1 分間
使用温度範囲	-5~+55℃
使用湿度範囲	90%RH 以下 (非結露、非氷結にて)
外形寸法	51(W)×97(H)×131(D)mm
重量	約 400g
取り付け	壁面または DIN レール取り付け
外形図	IF-11 ページ VI

通信仕様

通信方式	LonTalk® (ロントーク) プロトコル準拠
トランシーバ	TP/XF-78
伝送路形態	マルチドロップ接続 (T 形分岐可能)
伝送距離	総延長 2km、リピータ使用時 4km
伝送速度	78kbps
通信分解能	1/10000 以上
伝送方式	ポーリングセレクトング方式
最大接続台数	蓄積モジュール (WRT-STHT) 1 台につき 1 台まで (最大 8 台/1 ネットワーク)
伝送路	22AWG 相当 (特性インピーダンス約 100Ω) 昭和電線 デバイステクノロジー LW221 フジクラ F-LINK-L (1F) 富士電線 ICT 0.65mm×1P 日本電線工業 LO-NC22AWGX1P, LO-NC-HP22AWGX1P, EM-LO-NC22AWGX1P

蓄積/収集仕様

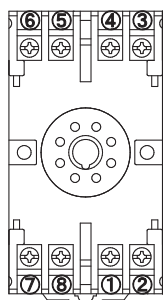
蓄積チャンネル数	1/2/4/8/16/32/64 チャンネル
蓄積件数	蓄積チャンネル数により変わります。(詳細次ページ)
蓄積時間	1/5/10/30/60 分
蓄積オーバーフロー	停止
パソコンへの収集	パソコンと接続時または時間を指定して自動収集。 モデム接続に対応
設定	蓄積設定ツール (WRS-PMS) を使用 RS-232C に接続したパソコン経由

別売付属品

終端抵抗	WRL-T100 100Ω ネットワークの終端に 1 個必要です。
------	--------------------------------------

端子配列

WRT-STOT



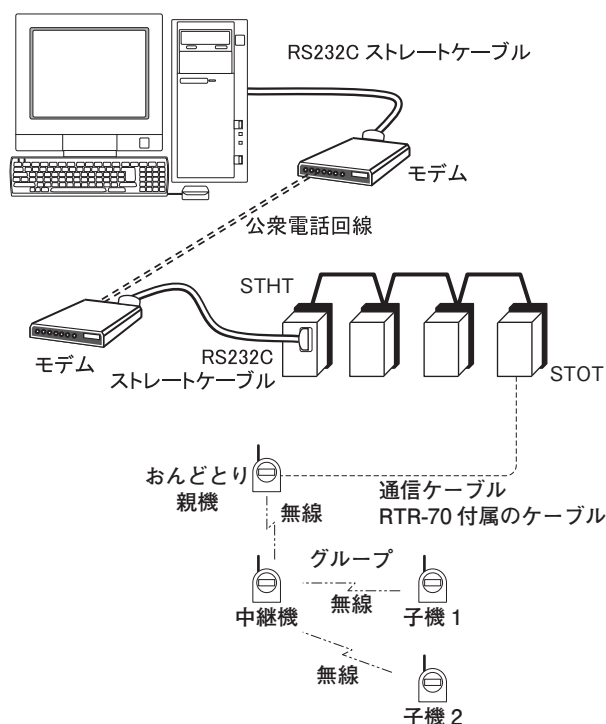
No.	記号	内容
1		空端子
2		空端子
3		空端子
4	FG	FG 端子
5	U(+)	POWER 電源
6	V(-)	
7	X	NETWORK 通信
8	Y	

RS-232C D-sub コネクタ 9 ピン



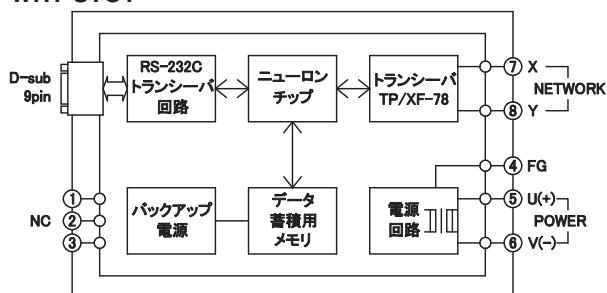
No.	信号	No.	信号
①	DCD	⑥	DSR
②	RXD	⑦	RTS
③	TXD	⑧	CTS
④	DTR	⑨	—
⑤	GND		

接続例



回路ブロック図

WRT-STOT



データ蓄積

蓄積設定はパソコンにインストールされた「蓄積設定ツール」を使用し、WRT-STHT 経由で行います。詳細は「蓄積設定ツール」のカタログをご覧ください。

- ・蓄積設定情報により、おんどとり（親機、中継機）経由で、ワイヤレスデータロガー子機の蓄積データを収集し、内部のメモリに蓄積できます。上位のコンピュータに接続し WRT-STHT 経由でデータを取り込みます。
- ・ワイヤレスデータロガーへの収集は差分データを収集します。（ファンクションスイッチ 8 が ON の場合、全データ収集します）
- ・蓄積設定ツール（WRS-PMS）へ蓄積データを送った後、蓄積データは削除されます。その後、1 分間ワイヤレスデータロガーのデータ収集は行いません。

1. 蓄積チャンネル数と蓄積可能件数

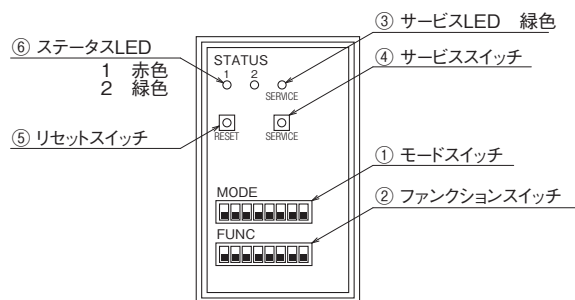
蓄積チャンネル数は最大 64 チャンネルです。（子機 32 台）

蓄積可能件数は 1 チャンネルにつき 1972 件です。

蓄積データが 1972 件になった場合はデータ収集、蓄積は停止します。

2. 蓄積可能日数

蓄積インターバル	1 分	5 分	10 分	30 分	60 分
蓄積可能日数	1 日	6 日	13 日	40 日	80 日



モードスイッチ 3、4 を ON にして、本体電源を入れた場合、ワイヤレスデータロガー中継機、子機の電波強度表示モードになります。

モードスイッチ 3 ON：中継機電波強度表示を行います。

モードスイッチ 4 ON：子機電波強度表示を行います。

- モードスイッチ 3、4 ともに ON の場合、子機の電波強度表示を行います。
- モードスイッチ 3 が ON で、中継機が設定されていない場合は無効となります。
- 電波強度表示を行った時、ステータス LED が 10 秒間点滅します。
- 電波強度表示を行う子機（蓄積チャンネル No.）をファンクションスイッチ 3～8 で指定します。
- 指定された子機と同じグループ No. の子機も同時に電波強度を表示します。
- 中継機電波強度表示を行う時は、表示させたい中継機のグループにある子機の蓄積チャンネル No. を指定します。
- 電波強度表示モード中は、データ蓄積機能は行いません。